

## 大館市”城”舎 ～大館市象徴の再編～

Odate town hall

Reorganization of Odate-shi symbol

佐藤信治<sup>1</sup>, ○山影悠時<sup>2</sup>, 遠洞躍斗<sup>2</sup>, 森浩平<sup>3</sup>, 上田紗矢香<sup>3</sup>, 小貫美依<sup>3</sup>

Shinji Sato<sup>1</sup>, ○Yuji Yamakage<sup>2</sup>, Yakuto Endo<sup>2</sup>, Kohei Mori<sup>3</sup>, Sayaka Ueda<sup>3</sup>, Emi Onuki<sup>3</sup>

The state of the present town hall in whole Japan is reconsidered. Many town halls made in a bubble economy period at present meet a durable period, and time of the rebuild comes. And it's the one by which one between the citizen can interchange to be increased as a suggestion of town hall advance while taking a public space as well as the former government office function in big.

There is also something which has the large space the outside people call, too as well as a place by the citizen's exchange.

A town hall is a place by the citizen's exchange from the place for which I go through the procedure and is in the current state which changes to the construction which symbolizes a city. It's desired at present to make the abundant place where citizens gather to take the wealth in the area in much and appeal for an area.

### 1. はじめに

現在の日本全体の市庁舎のあり方を再考する。現在、バブル期に作られた多くの市庁舎は耐用年数を迎え、建て替えの時期が訪れてる。そして市庁舎立て替えの提案として多くされているのが、今までの役所機能だけではなく、公共空間を大きく取り入れながら、市民同士が交流できるようなものである。

また、市民の交流の場だけではなく、外部の人々も呼び込むような大空間を持ち合わせるものもある。



fig1. (left: Hitachi right: Nagaoka) city office

市庁舎は手続きを行う場から、市民の交流の場となり、市を象徴する建築へと変わっているという現状にある。その地域にある資源を多く取り入れ、地域のアピールを行うとともに、市民が集まるような豊かな場を作ることが現在求められているのである。

私は市の象徴としてはもちろん、地域資源を取り入れ、その空間で新しい地域資源を生み出す場所としての市庁舎を提案する。

### 2. 計画背景

大館市は秋田県の北部に位置し、季節を感じさせる豊かなイベントが多く開催されている。中でも写真上のアメッコ市、大館桜祭りはほかの町から人々を呼び

込む大館市のひとつの要素となっている。



fig2. left: Market right: Sakura Festival

また、古くからの資源である、秋田杉を多く利用することで日本でも有名な特産物を生み出している。ところが、秋田杉の伐採が制限されたことで、廃材の再利用をするなど、歴史的資源を重要視しているまちであるといえる。近年では、「歴史まちづくり」を進めていることから、大館に眠る地域資源を現代に取り戻しつつある大館市の原動力となるような提案を行う。

### 3. 計画敷地

現在の市庁舎の敷地は昔の大館城と同じ場所に位置している。昔の敷地内の構成を再編する市庁舎の構成を考えた。北に大館城を構え、お堀を挟み、武家屋敷の並ぶ構成であったこの区画(fig3 L)。これを現代の大館のシンボルとしての市庁舎に置き換える。

今残っているお堀のラインを復原させる。南北に分かれた敷地を通り抜けできるような構成を計画することで区画全体で大館市を象徴する。区画の中心に建築全体のエントランスを設け、大館城のあった北部に市役所、武家屋敷のあった南部に公共の広場となる空間を配置(fig3 R)する。このような構成を取ることで大館城

1 : 日本大学・専任講師・海洋建築工学科 Assistant Prof Department of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U

2 : 日大理工・院・海洋建築工学科 Graduate School, Department of & engineering, CST, Nihon-U

3 : 日本大学・学部・海洋建築工学科 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST, Nihon-U

のあったこの区画全体を大館の中心的な象徴としてさまざまな方向からのアクセスを可能にさせる。



fig3. left: Odate castle right: Zoning

#### 4. 基本計画

大館の地理的特徴として盆地が挙げられる。夏は熱が溜まりやすく、冬には雪が多く溜まるような地域になっている。高齢化率の高い大館では、高齢者のための一年を通しての移動手段を考慮し、誰もが気候に対して快適な空間が求められると考えられる。冬期に降る雪を雪室を施設内に設置することにより一定の量だけ貯雪する。冬期に貯めた雪は夏期の冷房に利用することで、夏期に快適な活動を送ることができる。(fig4)



fig4. Snow room

また、積雪を操作することができる建築の形態にする。建築ボリュームを三角形で構成することで、雪溜まりの計画を行う。(fig5) また、三角の異なるサイズのボリュームを入れ子状にすることでできる大きな隙間を数カ所設けることで光を取り入れる計画とする。

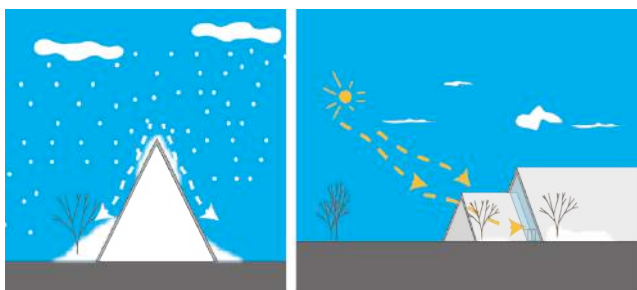


fig5. Construction plan

#### 5. 平面計画

メインエントランスを入ると東西に伸びる公共、執務の混在する空間が受け止める。中央図書館を現在の場所から移設し、中会議室、小会議室を配置し、市民の読書スペース等に開放することで、日々機能を変化させていく。(fig6)



fig6. Ground plan

#### 6. シーン説明

中央のメインエントランスからは、公共エントランス、広場エントランス、駐車場入口を南面に配置する。さまざまな人の流れを区画南面で受け止める計画とする。(fig7)

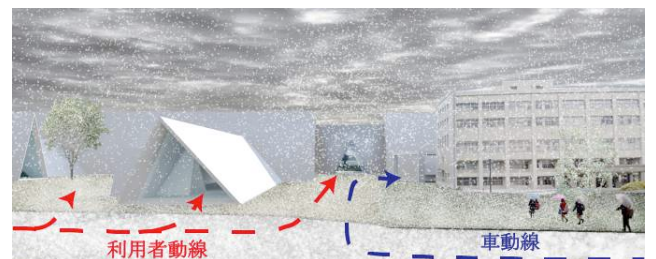


fig7. Main entrance

将来、更新することのできる計画とし、中央図書館の移設に備えた計画とする。また、入れ子状の構成による大きな隙間から入る光により、年中建築内部を明るく照らす。(fig8)



fig8. (left: Winter right: Spring)Local photograph

#### 7. 参考文献

大館市ホーム:<http://www.city.odate.akita.jp/>